

クニミネ工業株式会社



infinity

2014年3月期
決算説明会

2014年6月3日

証券コード：5388

1 経営トピックス

2 2014年3月期 決算概要

3 2015年3月期 通期見通し

4 中期経営計画

経営トピックス

- 3期連続で過去最高の売上高と営業利益を更新。期初計画を上回る。
- アグリ主要3工場のシナジー効果により受託品が増、精製ベントナイトも好調に推移。

(単位：百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	前期比		期初計画比		
			増減額	増減率	期初計画	増減額	増減率
売上高	11,680	12,044	364	3.1%	11,463	581	5.1%
営業利益	1,393	1,521	127	9.2%	1,198	322	26.9%
経常利益	1,671	1,723	51	3.1%	1,335	387	29.0%
当期純利益	1,075	1,075	△ 0	△0.0%	758	317	41.9%

1 経営トピックス

2 2014年3月期 決算概要

3 2015年3月期 通期見通し

4 中期経営計画

2014年3月期 決算概要

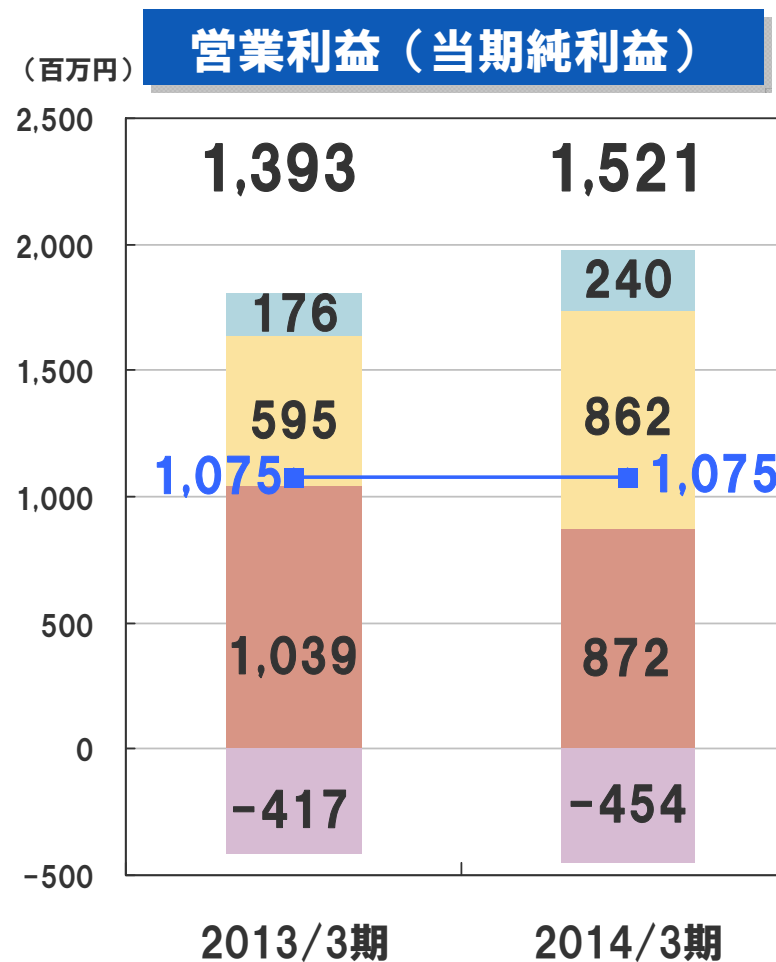
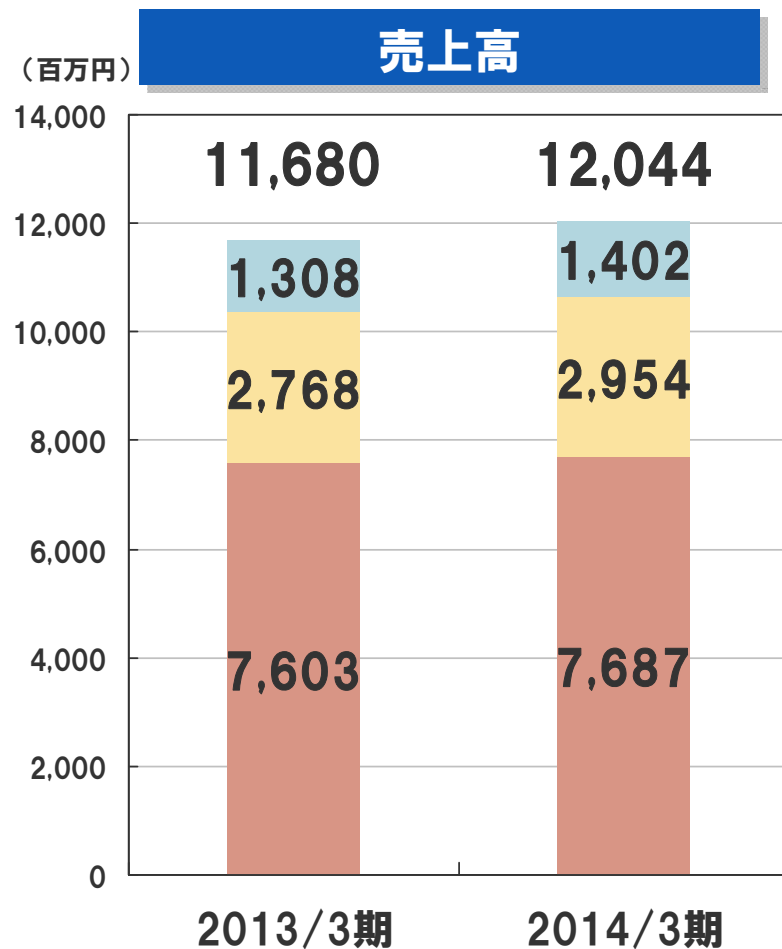
要約損益計算書（前期比）

（単位：百万円）

	2013年3月期		2014年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	11,680		12,044		364	3.1%
売上原価	7,767	66.5%	8,019	66.6%	252	3.2%
売上総利益	3,913	33.5%	4,025	33.4%	112	2.9%
販売管理費	2,519	21.6%	2,504	20.8%	△ 15	△ 0.6%
営業利益	1,393	11.9%	1,521	12.6%	127	9.2%
営業外収益	296	2.5%	212	1.8%	△ 83	△28.1%
営業外費用	18	0.2%	10	0.1%	△ 7	△41.7%
経常利益	1,671	14.3%	1,723	14.3%	51	3.1%
特別利益	24	0.2%	8	0.1%	△ 16	△66.3%
特別損失	41	0.4%	9	0.1%	△ 32	△77.9%
当期純利益	1,075	9.2%	1,075	8.9%	△ 0	△ 0.0%

2014年3月期 決算概要

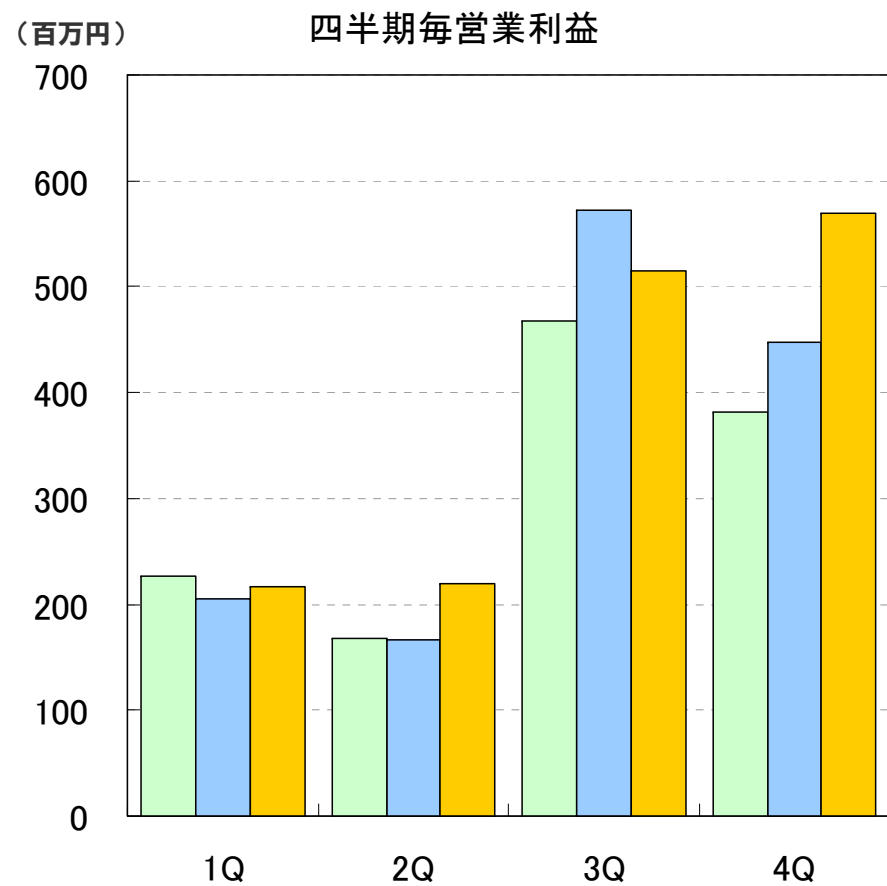
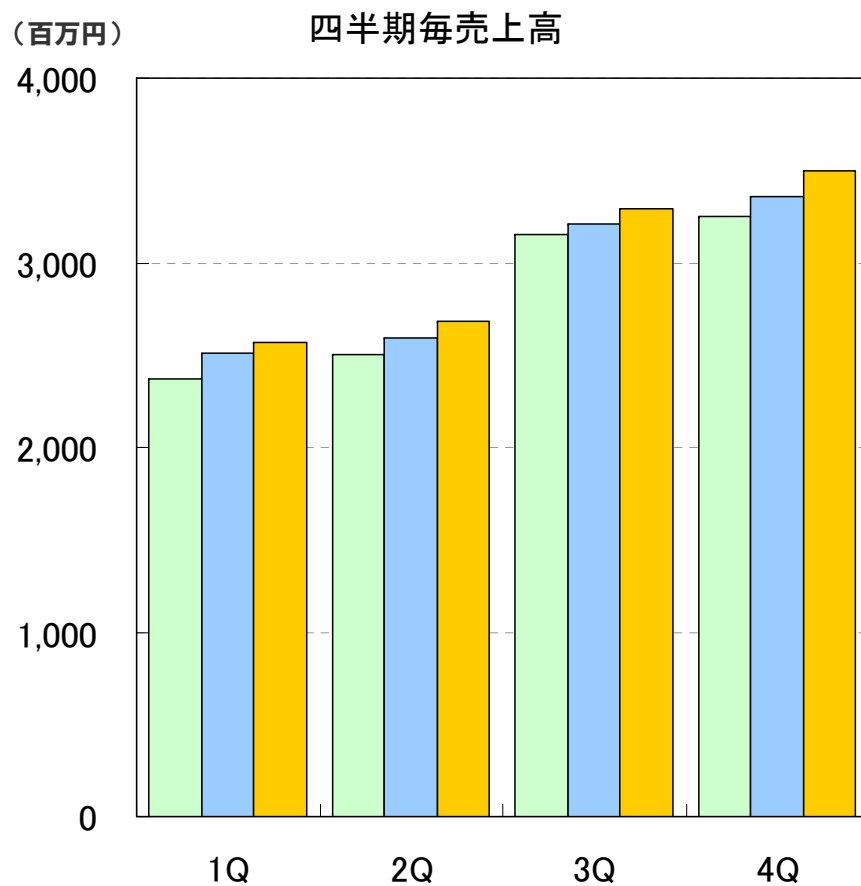
事業セグメント別 売上高・営業利益 推移（前期比）



■ ベントナイト事業部門
 ■ アグリ事業部門
 ■ 化成品事業部門
 ■ 全社費用等
 ■ 当期純利益

2014年3月期 決算概要

四半期売上高、四半期毎営業利益推移



2012/3 2013/3 2014/3

2014年3月期 決算概要

ベントナイト事業部門（前期比）

（単位：百万円）

	2013年3月期	2014年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	7,603	7,687	84	1.1%
鋳物	4,189	4,383	194	4.6%
土木建築	2,688	2,631	△ 56	△ 2.1%
ペット関連	725	672	△ 52	△ 7.3%
セグメント利益	1,039	872	△ 166	△ 16.0%
セグメント利益率	13.7%	11.3%		

■売上高

- 鋳物 : トラック・建機類の復興向け、および乗用車の駆け込み需要で増。
- 土木建築 : 都市土木向け需要は増えるも、地熱向けで大型案件が無く減。
- ペット関連 : OEM品取扱量が増えるも、市場全体が低調であり減。

■セグメント利益

大幅な円安に伴う輸入原鉱や燃料費等の高騰が影響し減。

2014年3月期 決算概要

アグリ事業部門（前期比）

（単位：百万円）

	2013年3月期	2014年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,768	2,954	185	6.7%
セグメント利益	595	862	267	44.8%
セグメント利益率	21.5%	29.2%		

（*主要受託品の契約条件が変更されたことにより、売上高に対するセグメント利益率が大幅に改善されました）

■売上高

アグリ主要3工場体制での生産最適化による受注増により増。

■セグメント利益

受注増により大幅増。

2014年3月期 決算概要

化成品事業部門（前期比）

（単位：百万円）

	2013年3月期	2014年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,308	1,402	94	7.2%
セグメント利益	176	240	63	36.2%
セグメント利益率	13.5%	17.2%		

■売上高

精製ベントナイト（クニピア）、止水材の出荷が大幅に増加したことにより増。

■セグメント利益

上記により大幅増。

2014年3月期 決算概要

要約貸借対照表（前期比）

	2013年3月期	2014年3月期	前期比	
			増減額	増減率
流動資産	8,881	9,202	321	3.6%
現金及び預金	3,077	3,149	73	2.4%
受取手形及び売掛金	3,871	3,850	△ 23	△ 0.6%
たな卸資産	1,653	1,836	183	11.1%
固定資産	5,804	6,081	277	4.8%
有形固定資産	4,282	4,498	216	5.0%
無形固定資産	141	117	△ 24	△ 17.2%
投資等	1,379	1,465	85	6.2%
資産合計	14,686	15,283	598	4.1%
流動負債	2,246	2,075	△ 170	△ 7.6%
買掛金	736	787	52	7.0%
短期借入金	182	99	△ 83	△ 45.4%
固定負債	1,121	1,004	△ 117	△ 10.4%
長期借入金	99	-	△ 99	-
負債合計	3,367	3,080	△ 287	△ 8.5%
株主資本合計	10,993	11,762	769	7.0%
純資産合計	11,318	12,203	885	7.8%
負債純資産合計	14,686	15,283	598	4.1%

（単位：百万円）

1 経営トピックス

2 2014年3月期 決算概要

3 2015年3月期 通期見通し

4 中期経営計画

2015年3月期 通期見通し

損益見通し

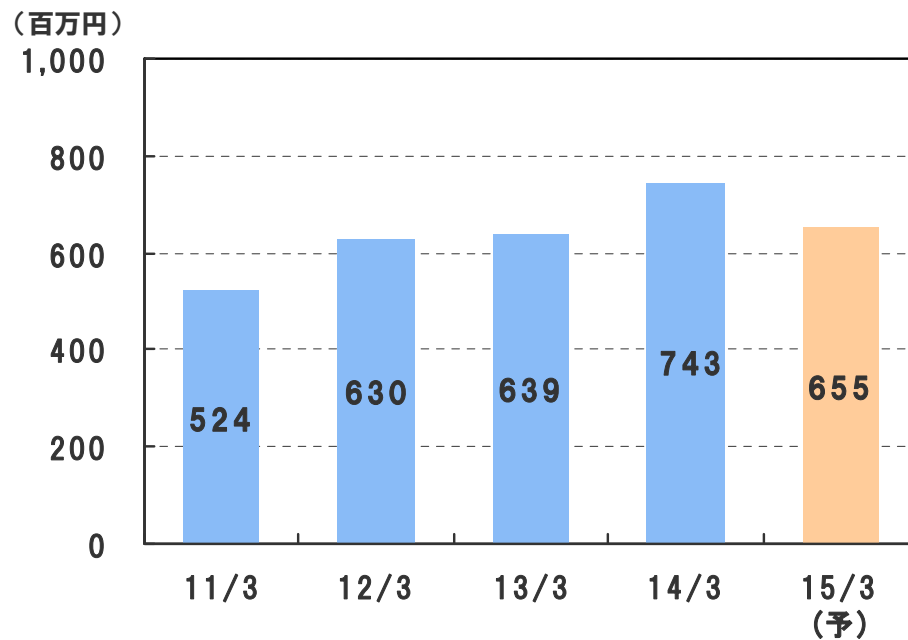
(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期 (予)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	12,044	12,549	505	4.2%
営業利益	1,521	1,596	75	4.9%
経常利益	1,723	1,746	23	1.3%
当期純利益	1,075	1,056	△ 19	△1.8%

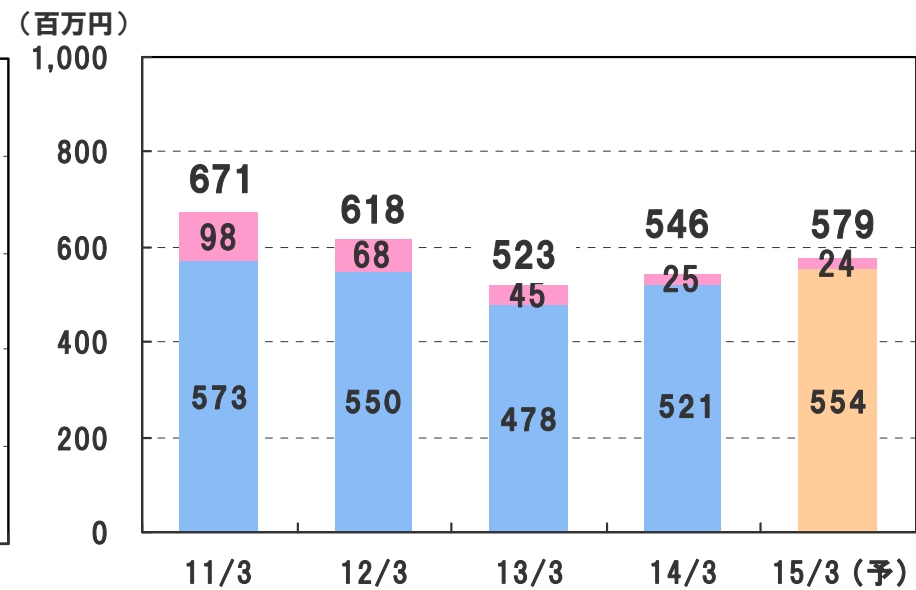
- 鋳物と化成品は海外展開推進強化、土木建築は国内需要取り込み、アグリ事業は主要3工場のシナジー効果により増収を見込む。
- 輸入原鉱や燃料費等の高止まりが予想されるが、消費原単位の合理化等を更に推進していくことで対応する。

2015年3月期 通期見通し -設備投資額・減価償却費-

設備投資額



減価償却費



- ※ グラフの青部分は実績を表しています。
- ※ グラフの赤部分は、リース資産に係る減価償却費であります。

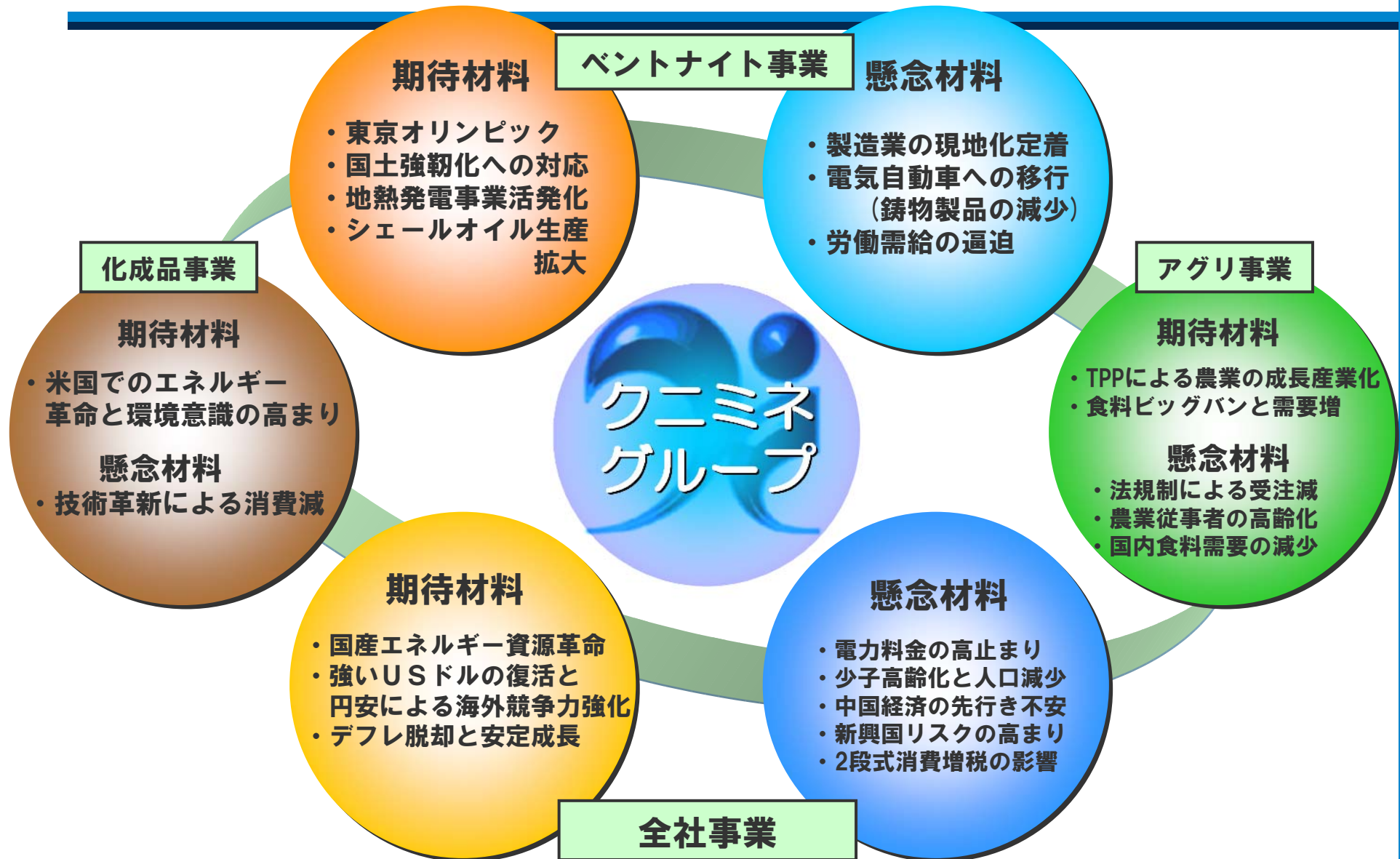
1 経営トピックス

2 2014年3月期 決算概要

3 2015年3月期 通期見通し

4 **中期経営計画**

中期経営計画 -クニミネグループを取り巻く事業環境-



中期経営計画 -基本戦略と目標-

基本戦略

1

海外市場との
関係拡充

3カ年の取り組み

- ・ 自社原鉱の特性を活かした差別化製品による進出強化
- ・ 高品質原鉱の現地調達
- ・ 海外協力会社へのコンサル

2016年3月期目標

海外売上比率 **15%**

2

国内基盤事業の
増強

- ・ 復興、地熱、都市土木関連事業への継続的対応
- ・ 国内未利用資源の有効活用

売上高
123億円→**130億円**

3

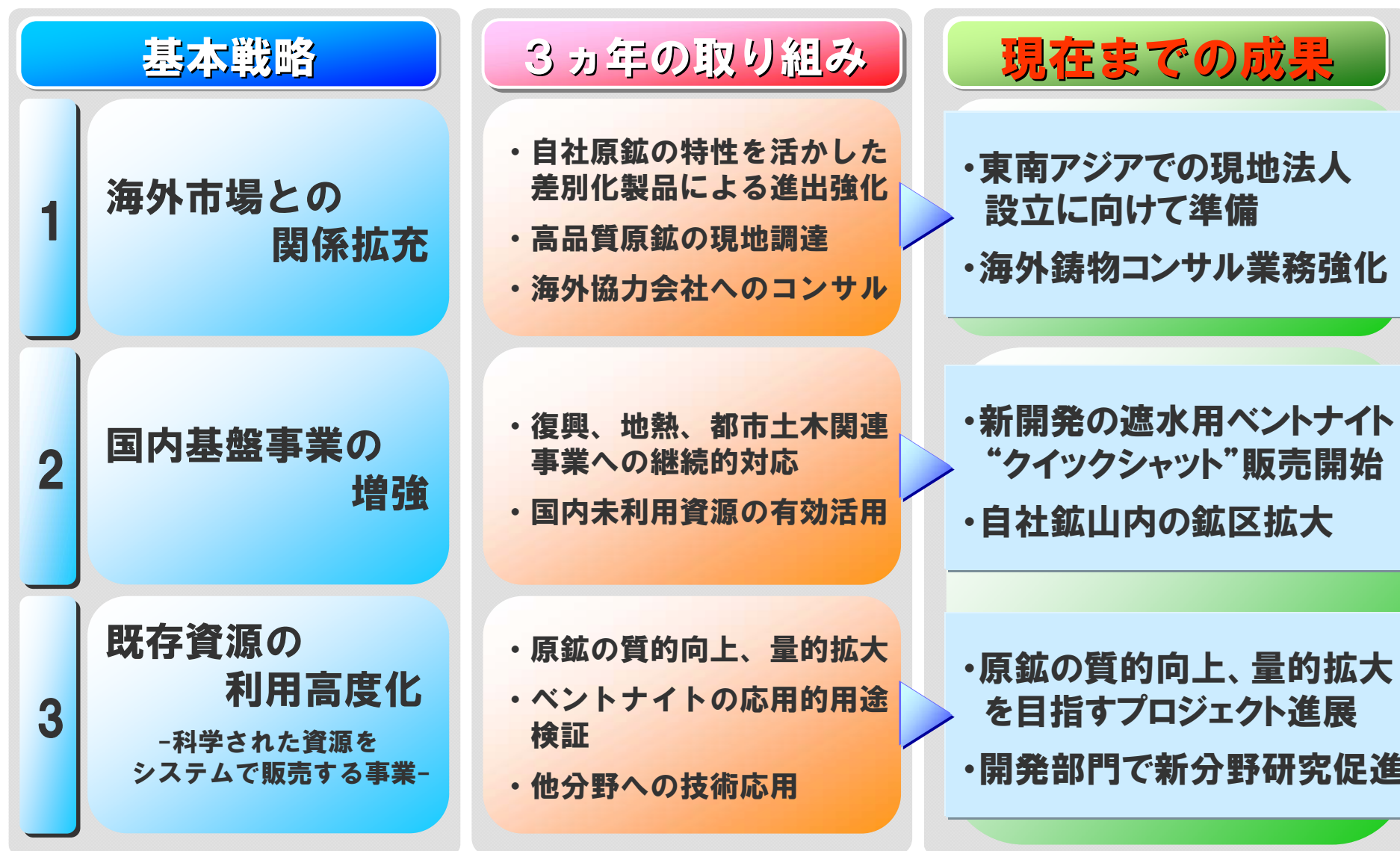
既存資源の
利用高度化

-科学された資源を
システムで販売する事業-

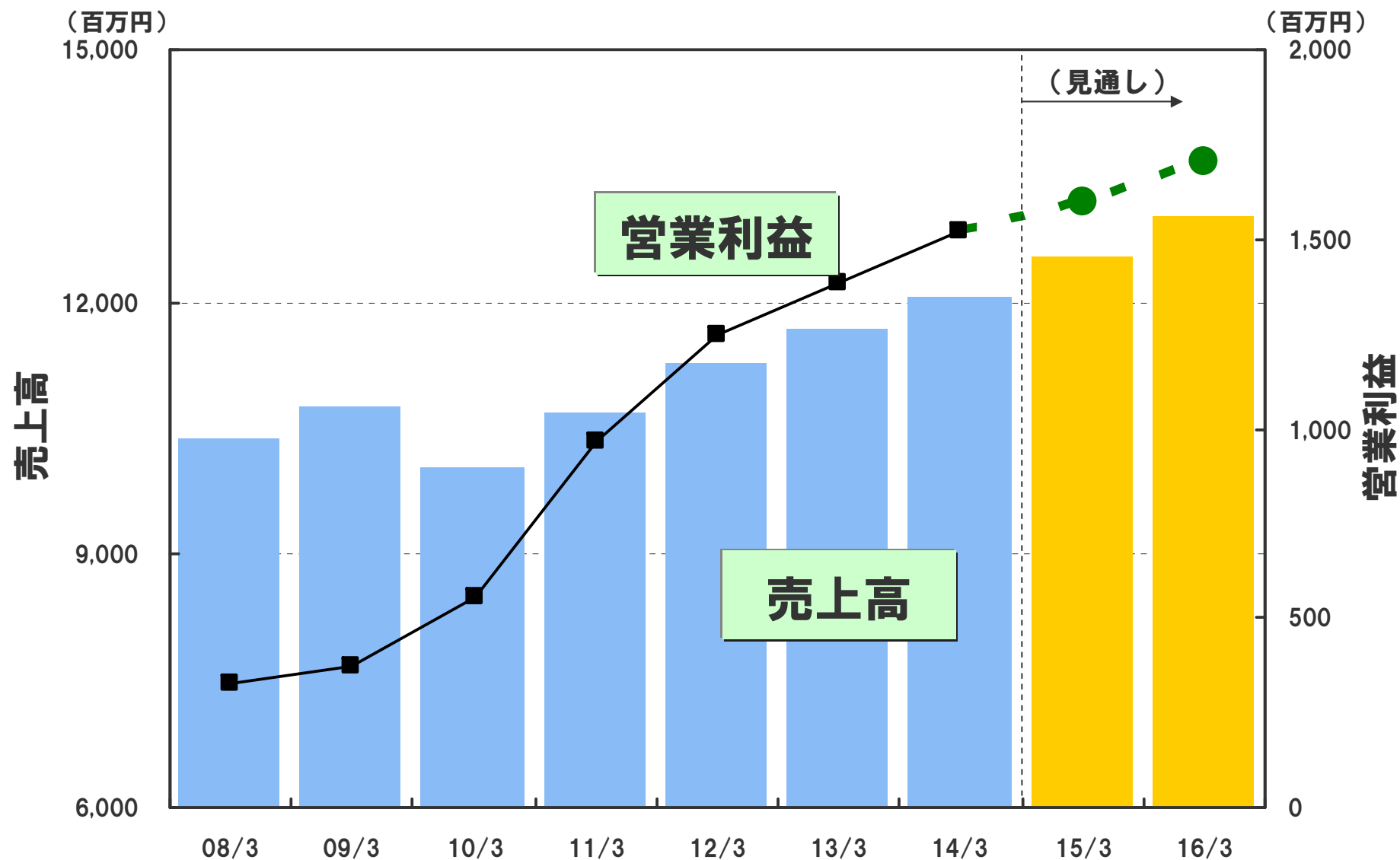
- ・ 原鉱の質的向上、量的拡大
- ・ ベントナイトの応用的用途検証
- ・ 他分野への技術応用

営業利益
15億円→**17億円**

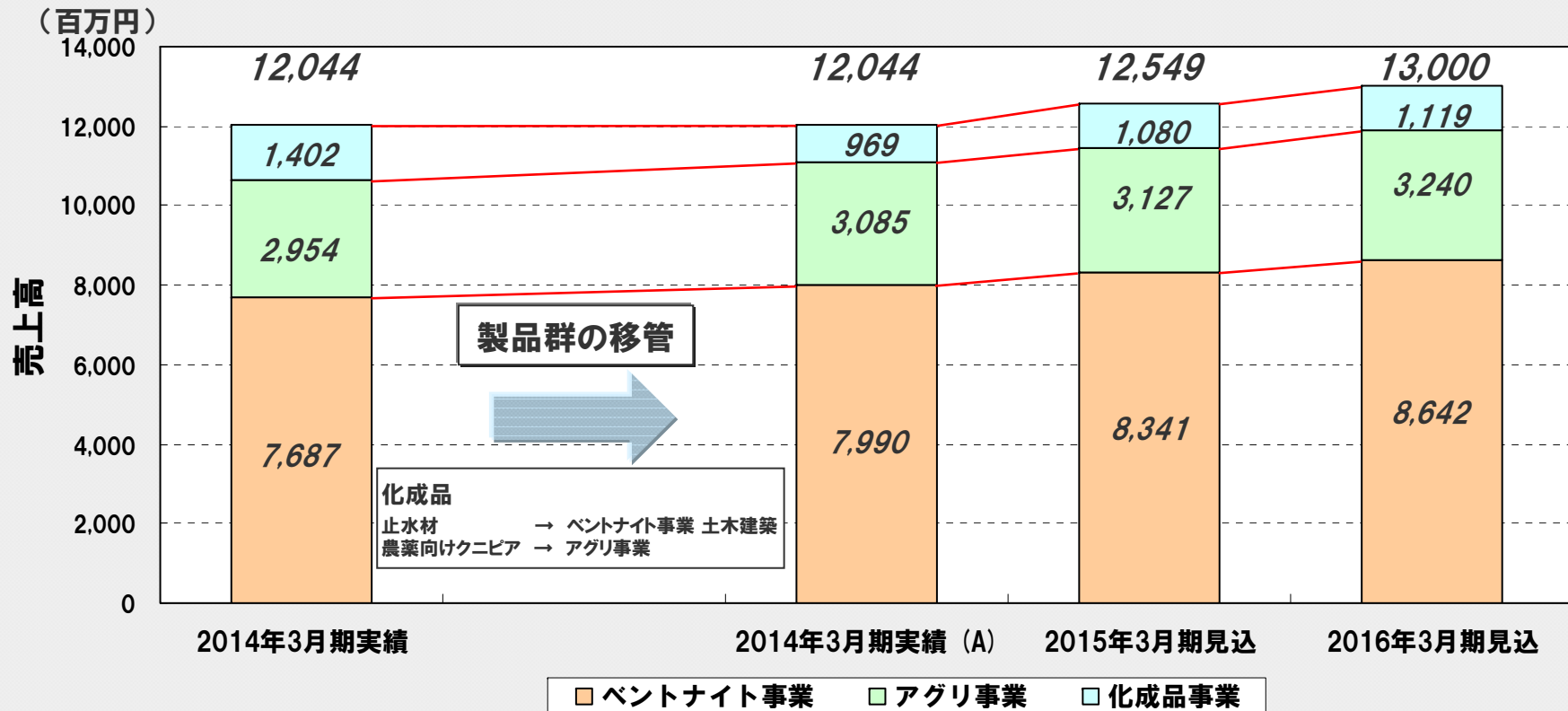
中期経営計画 -基本戦略と目標 現在までの成果-



中期経営計画 -売上高、営業利益の推移と目標-

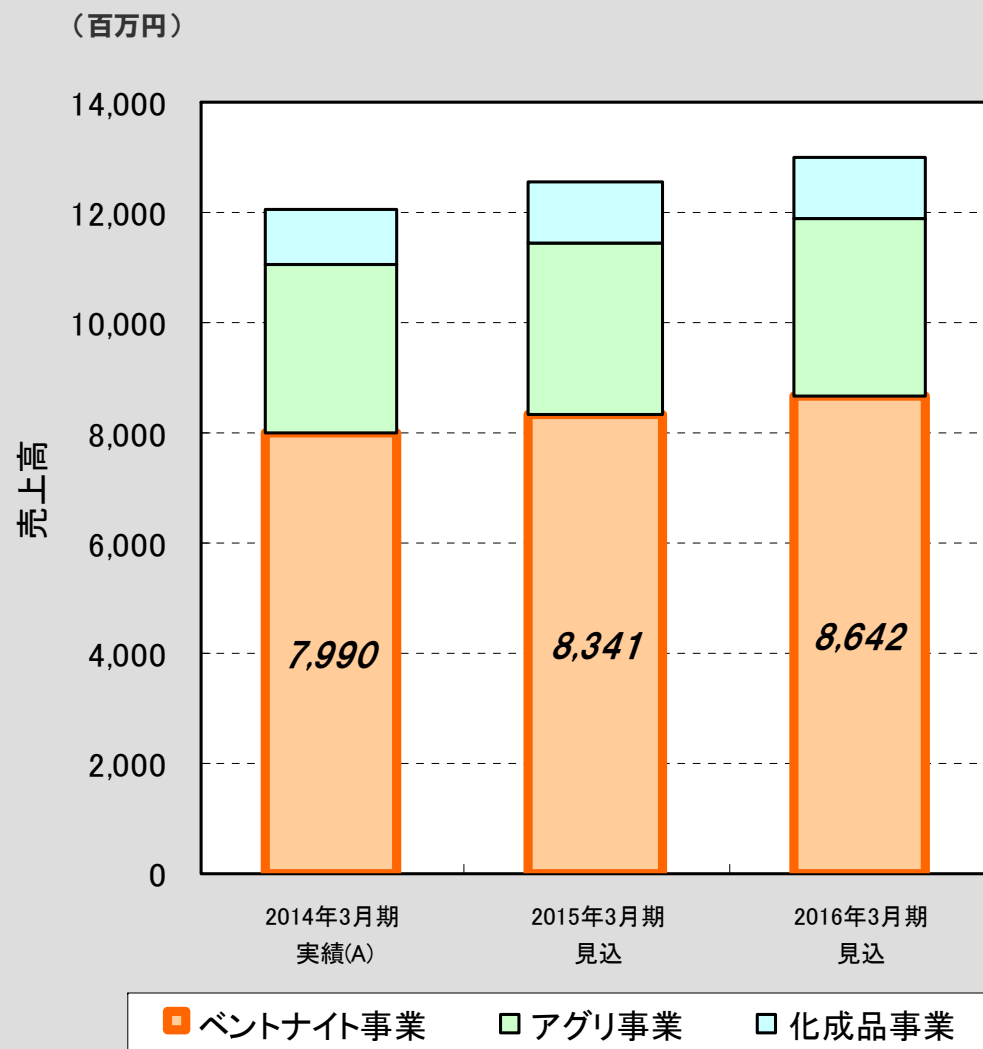


注記 - 簡易事業部制採用に伴うセグメント情報の変更 -



2015年3月期から、化成品事業部門で取り扱っていた止水材はベントナイト事業部門の土木建築分野に、農薬向けクニピアはアグリ事業部門に、それぞれ移管しております。2014年3月期の組み換え後売上高については、上記グラフ(A)になります。

中期経営計画 -ベントナイト事業部門の方向性-



鑄物分野

・海外市場への進出強化

⇒ハード(原鉱)戦略

※現地調達化を軸にした製品展開

※国内鉱の特性による競争力強化

⇒ソフト(知見・技術)戦略

※国内で培った知見と技術の応用

※国外で培う新たな知見の活用

土木建築分野

・国内需要確保と海外展開の足掛かり

⇒復興・除染関連への積極的取組み

⇒地熱などボーリング分野への営業強化

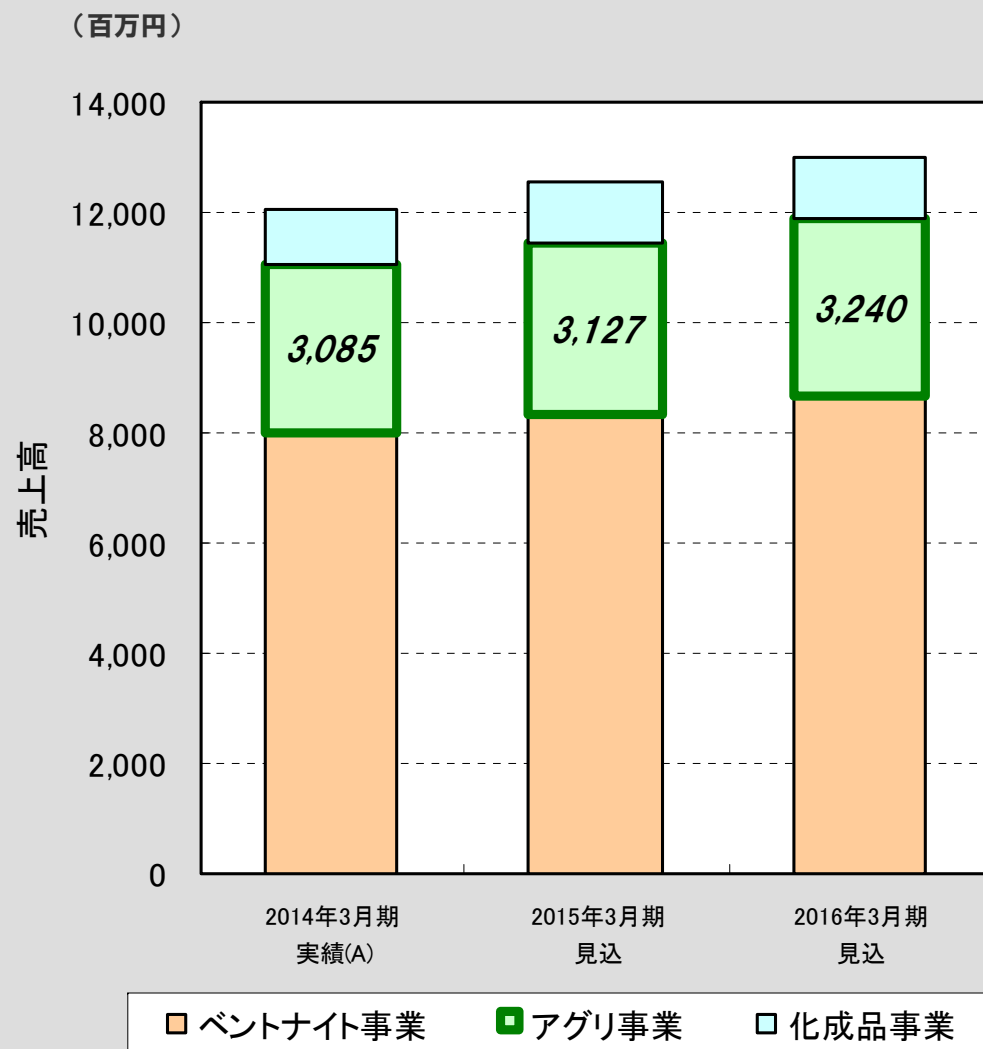
⇒高品質化と新機軸製品の海外展開

⇒止水材の販売体制強化

ペット関連分野

・採算性を重視した戦略の継続

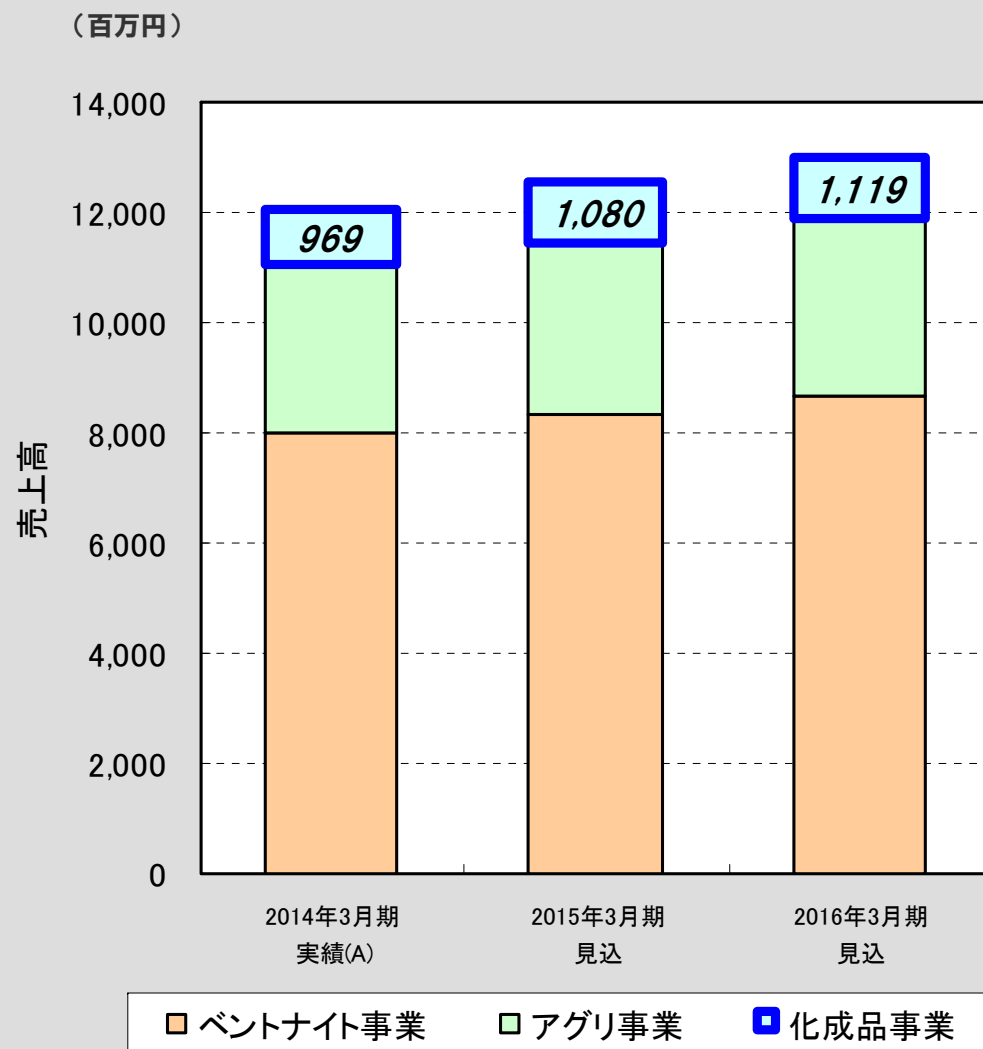
中期経営計画 -アグリ事業部門の方向性-



アグリ事業分野

- ・製販一体化による生産・収益性向上
- ・顧客満足向上と製造最適化
 - ⇒主要3工場でのシナジー効果を活かした生産能力の向上と製造品目の多様化
 - ⇒多品種少量生産のための製造ライン増強
- ・農薬製造で得た技術の応用展開
 - ⇒新しい農業分野の模索
 - ⇒造粒技術などを基にした他分野進出への足掛かり的研究

中期経営計画 - 化成品事業部門の方向性 -



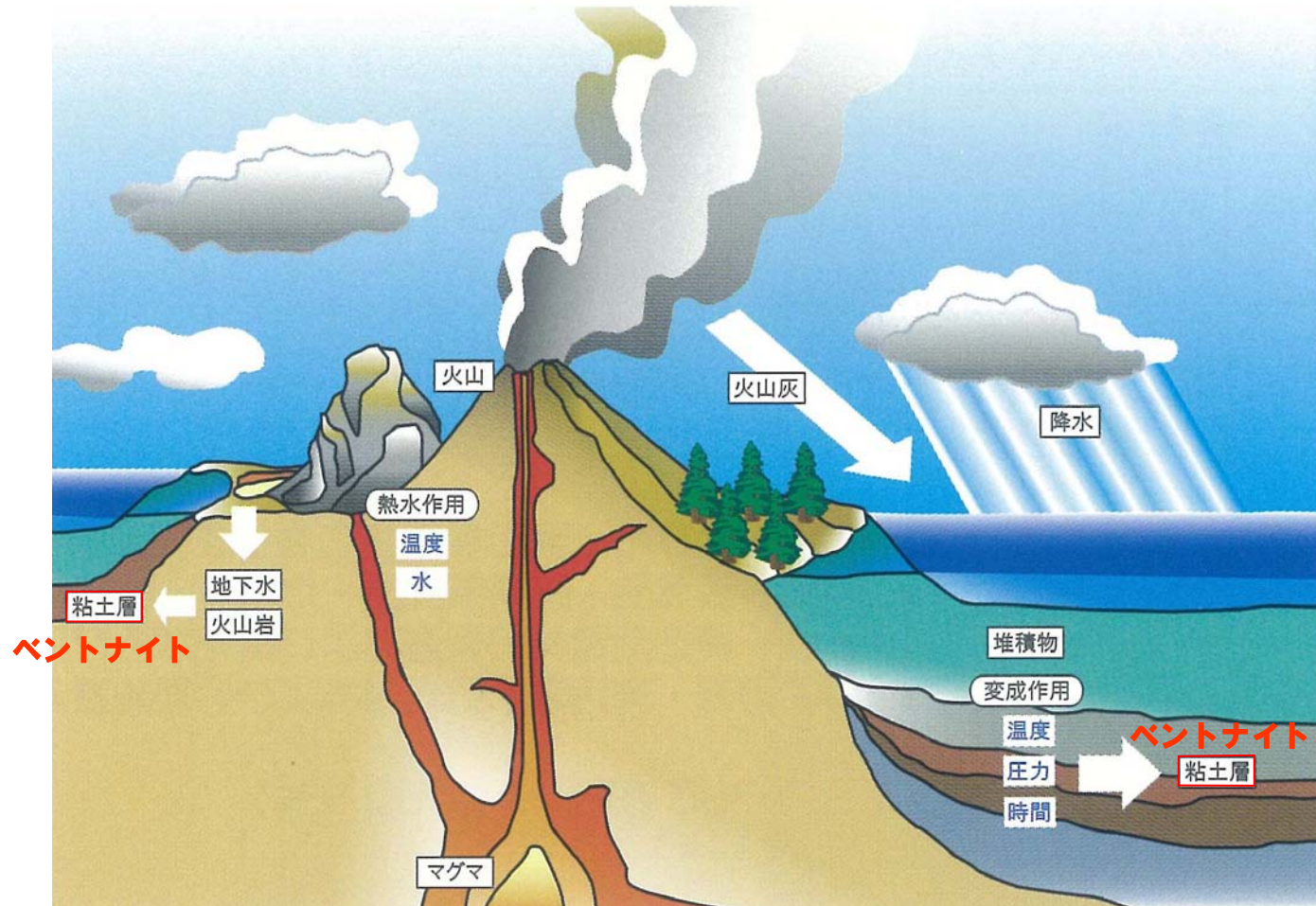
化成品分野

- ・高付加価値製品の販売強化**
 ⇒クニピアMのバリエーション強化
 ⇒スメクトンSTを応用した事業領域拡大
- ・海外展開の拡充**
 ⇒ファインケミカル製品による
 海外未開拓市場への展開
- ・新製品・新用途に向けた研究開発**
 ⇒クニピア高性能化、特性強化
 ⇒環境保全処理剤への新機能付与

参考資料 ベントナイトとは？

☆ ベントナイトができるまで

海底・湖底に堆積した火山灰や熔岩に、ある程度の温度や圧力が数千万年という長い期間にわたって加えられたことで、分子レベルでの構造変化が生じ、鉱物集合体であるベントナイトは生成されます。つまり幾多もの条件がそろったことで奇跡的に作られた“地球からの贈り物”といえます。



参考資料 ベントナイト事業部門について

1. ベントナイトとは？

ベントナイトとは海底・湖底に堆積した火山灰や熔岩が変質することで出来た粘土鉱物の一種です。

“ベントナイト”という名称は、岩石名（鉱物集合体の総称）であり、その成分は地域や場所によって異なります。

成分としてはモンモリロナイトという鉱物を主成分とし、他に石英や長石、雲母、ゼオライト等の鉱物を含んでいます。多くの鉱物が混ざっていますが、モンモリロナイトの持つ特異的な物性そのままベントナイトの物性となっております。



写真上：製品化前のベントナイト
写真下：製品化したベントナイト

2. ベントナイトの物性

ベントナイトの主成分であるモンモリロナイトの結晶は、特異的な構造をしており、そのため多種多様な特性を持っています。また、Na型とCa型の2種類があり、それぞれ有する特性が違うので用途によって使い分けされています。

○ベントナイト物性○

- 膨潤性
- 増粘性、粘結性
- 吸水性、吸着性
- 懸濁安定性
- 陽イオン交換性
- チクソトロピー性

○Na型とCa型の違い○

- Na型：特に膨潤性・増粘性・懸濁安定性に優れている。
- Ca型：特に粘結性に優れている

3. ベントナイトの用途

皆さんが日常生活でベントナイトを使用するという事は無いと思いますが、実は知らない所で様々な分野にて使用されています。

○ベントナイト使用分野及びその用途○

- 鋳物分野：生型用粘結剤
- 土木分野：基礎工用泥水
- 建築分野：浸入水防止用止水材
- 化粧品分野：増粘剤、分散剤
- ペット分野：ペット用トイレ砂
- 農業分野：粘結剤、分散剤

4. ベントナイトの安全性

ベントナイトは完全無機鉱物なので、それ自体が腐敗することはありません。土壤環境基準や日本薬局方などの基準に合致しており、人体にも環境にも優しい材料であることが保証されています。

5. ベントナイトの新展開

ベントナイトの主成分であるモンモリロナイトは、水系条件下においては左記特性を発揮するのですが、油系（有機系）条件下では思惑通りにいきませんでした。その点を克服するべく開発を進め、ベントナイトの親油化（親有機化）が実現されています。これにより有機溶媒や樹脂への分散が可能となり、新たな用途展開へと繋がりました。

また樹脂の物性向上方法として期待されているナノコンポジット分野においてもベントナイトの性能は評価されており、新技術の立役者として今後注目されていくと考えられます。



トルエンへの分散比較
左：通常品 右：親有機化学品

参考資料 アグリ事業部門について

造粒・製剤というもうひとつの固有技術

農薬の製造にあたっては、薬の原体は化学メーカーなどが開発・製造しますが、それを最終的な農薬の形にするのは製剤メーカーの担当となっています。クニミネ工業では当初、ベントナイトを粒状にしてそれに農薬原体をしみこませることによって、薬効成分が放出される速度や量をコントロールする、ベントナイトの応用製品を手がけていました。



最近では、原体そのものや農薬送達システムなどの研究開発が進み、農業分野でのベントナイトの使用量は減少してきましたが、クニミネ工業はそこで粒をつくるための造粒技術や農薬の製剤技術を着実に蓄積していきました。

このようなノウハウを駆使した製品のひとつに、「はじける農薬」があります。これは原体を水溶性のバインダーと混ぜ合わせてその中に空気を押し込み、周りをノリでコーティングして細かい粒状にしたもの。一度水に沈んだ粒が浮上し、そこで周りのノリが溶けることによって、薬用成分が水面に拡散するようになっています。これは、水田での除草剤など主に使われていますが、こうした技術によってクニミネ工業は、海外の大手化学メーカーからも農薬の加工を受注しています。

農薬になぜ造粒が必要なのだろう

- ① 除放の目的場所に確実にまくことができ、作物が生育中でも地面にちゃんと届く
- ② 作物の茎や葉への付着がほとんどなく、接触による薬害を防ぐことができる
- ③ 微粉が飛ばないので周辺環境や農作物への汚染を避けることができる
- ④ 微細粉付着、吸入、誤飲、誤食などによる事故が少ない
- ⑤ 機械散布などによって、扱いが簡単になる
- ⑥ 主剤の放出調節がかなり可能になり、農薬の効果改善や薬害軽減が図れる

造粒の効果ベスト10

第1位 流動性が高い

粒はさらさらとして流動性がよいため、生産や輸送の際に取扱いやすいし、自動化も簡単

第2位 環境にやさしい

粉体に比べて発塵がほとんどないので、周囲の環境への汚染が防げる

第3位 品質の均一化を図れる

粉体の複数成分の間に密度や形状の差があった場合、均一にまざらないおそれがある。そのためにそれぞれの粉体を造粒しておく、品質の均一化が図れる

第4位 流体抵抗を少なくする

触媒や吸着剤など気体や液体との接触を前提とする製品では、流体抵抗を減少させる目的で造粒されることが多い

第5位 水に溶けやすい

洗剤など、水に溶解する必要がある製品では、顆粒状のほうが溶けやすい

第6位 かさ密度の調整が可能

造粒することによってかさ密度がコントロールしやすく、輸送、貯蔵、包装などでコンパクト化できる

第7位 量が計りやすい

タブレットやペレット状にすると計数による定量ができ、粉体より量が計りやすくなる

第8位 外観がきれい

造粒品は外観が美しく商品への信頼も高める効果がある

第9位 除放性にすぐれる

粒表面に皮膜を形成するコーティング造粒では、皮膜によって粒成分の溶け出す量や時間をコントロールできる（除放性）

第10位 機能製品の開発が可能

マイクロカプセルなど、ターゲットを絞り込んだ機能製品の開発ができる

参考資料 化成品事業部門（クニピア）について

「クニピア」の特徴

(1) 高い粘性・膨潤性・チクソトロピー性を持っています。

モンモリロナイトは層間（単位層と単位層の間）に水分子を取り込み、層間隔が大きくなる特性があります。これを膨潤性と呼びますが、モンモリロナイトはこの膨潤性が非常に高いほか、粘結性、チクソトロピー性、陽イオン交換性、吸着性など数々の特異な性質を有しています。しかも、クニピアは化学物質を一切添加していない、また有害元素などをほとんど含まない無害鉱物です。分散体はサラツとしていて粘着や糸引きがありません。



クニピア分散液

(2) 安全で腐らない、安定した無機コロイドです。

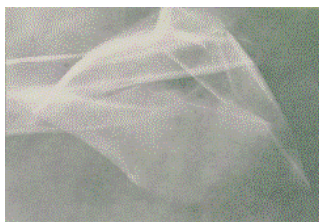
モンモリロナイトは水中で膨潤して、単位層まで分散すると考えられています。従って、水とクニピアの比率を変えることによって、低粘度の分散液から固いゲルまで、自由に粘度を調整することが可能です。また、クニピアは完全な無機コロイド粒子から成っているので、微生物による分解や変質作用を受けません。さらに薄いフィルム状の粒子で比表面積が大きく、陽イオン交換性を持っているため、様々な無機物や有機物をインターカレートするという特長もあります。



膨潤力測定

(3) 可能性あふれる層間化合物をつくることできる。

モンモリロナイトの結晶構造は、ケイ酸四面体層-アルミナ八面体層-ケイ酸四面体層と、3つの層が積み重なって一枚の結晶層を形成しています。この層の間に水が取り込まれて、例えば紙が水を吸って膨らむように膨潤していくというわけです。近年、この層間に水以外の分子なども取り込ませ、その空間を舞台にして未開の分野に挑戦しようと、新しい研究にも積極的に取り組んでいます。



走査型電子顕微鏡写真（5万倍）

「クニピア」の用途

(1) 医薬品・化粧品・塗料

クニピアは日本薬局方「ベントナイト」・医薬部外品原料規格「ベントナイト」に準拠しており、エマルジョン安定剤やレオロジー改質剤として用いられます。人体に優しいということから、特に医薬品・化粧品などで活躍。なかでも化粧品では、皮膚の表面で水とともに薄いフィルムを形成、これで保湿性や伸展性、接着性が向上して、油脂分のべとつきを解消しサラツとした肌ざわりになるという効果が得られています。また、各種塗料の成膜性、拡がり性向上、タレ防止にもその力を発揮しています。

(2) 洗剤・液体農薬

吸着性をベースに応用されているのが洗濯用洗剤の分野です。これはモンモリロナイトが布に吸着されて、柔軟効果を発揮することを期待してのものです。また、液体を沈降させない増粘性、無機ゆえに腐らないという特長を利用して、長期に保存されることの多い液体農薬にも使われています。この他、ほとんど無害であるということと併せてハミガキペーストに、クリーナーではダレや流れの防止に、カーペットでは帯電防止に応用されています。

(3) 新しい層間利用分野

モンモリロナイトの結晶はナノレベルの板状構造です。昨今では、この特異な結晶構造の利用や、結晶の表面処理を行って、様々な分野への応用が期待されています。

例えば、樹脂フィラーとして耐熱性やガスバリア性を向上させたり、結晶層間に触媒機能を持つ元素を担持させたり、有機カチオンを結晶表面に修飾させて新しい機能を持たせたりと、その応用分野は多岐に亘ります。モンモリロナイトの層間利用は今後最も可能性のある分野だといえるかもしれません。

「クニピア」商品種類と特性

※特性は参考値であり規格値ではありません

	クニピアF
粘度	200~400mPas
膨潤力	45ml/2g以上
pH	10
水分	10%以下
白色度	60以上
外観	微粉末
カチオン交換能	115meq/100g

粘度：4%分散液 BM型粘度計 60rpm 25℃
白色度：ハンター白色度

本日はありがとうございました。

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

